

中小企業のIT化を支援するプロジェクト

経済産業省推進事業

IT経営応援隊

～2008年7月

<http://www.itouentai.jp/>



IT経営応援隊は、情報提供、支援機関連携、支援メニュー提供などにより中小企業の戦略的IT化を支援していく経済産業省推進のプロジェクト。

全国規模の展開と経済産業局管轄地域別の活動(地域活動)に分かれる。

中小企業 IT経営力大賞

2月に第1回の受賞企業が発表された中小企業IT経営力大賞は、優れたIT経営を実践し、かつ、他の中小企業がIT経営に取り組み際の参考となる事例を表彰するものである。本年度も同顕彰制度は継続され、8月には募集が開始される見込みである。詳細はIT経営応援隊のホームページまで。

また、このほどIT経営応援隊事務局から、第1回の受賞企業を紹介する事例集が刊行された。各社の事業特性、経営者の思い、IT経営の実践の様子が描かれている。本年度の応募企業はもちろん、多くの企業に目を通してほしい1冊である。

▼「中小企業IT経営力大賞vol1」



問い合わせ先
IT経営応援隊事務局 中小企業IT経営力大賞担当
情報処理推進機構 IT人材育成企画部 電話: 03-5978-7506

平成20年度の活動内容を展望する 《全国各地で多数の研修会を開催》

経済産業省が推進するIT経営応援隊事業(事務局・情報処理推進機構、日本商工会議所、ITコーディネーター協会)は、ITの活用によって中小企業の競争力強化を目指す活動である。

平成16年度に始まった同事業は平成19年度より「気づきから実践へ」の第2フェーズに入った。事業は全国レベルのものと地域経済産業局をベースに実施する地域事業に分かれ、前者は中小企業IT経営力大賞に代表される優秀事例の発掘・広報活動、および研修会の開催を柱とする。ここでは関係者への取材を元に、研修会を中心とした平成20年度の事業を展望してみたい。

小規模企業を支援する 「気づき研修会」を新設

経営者向けの研修会は少人数制で、数日にわたって経営分析からIT戦略の立案までを行うものだ。

この研修会事業について、経済産業省情報化人材室の夏目健夫室長は、骨格は変わらないものの、少し内容の調整を行ったという。

「従来の3～4日を要する研修会は、経営者が事業の担い手でもある小規模企業やサービス業などにとって参加しにくい面がありました。今年は半日コースを用意し、多様な企業を支援できる体制を整えました」

具体的には、大きく2種類の研修会が設けられることになった。

経済産業省推進IT経営応援隊の主な事業内容

全国レベルで
管轄・実施

- IT経営力大賞の実施
(IT経営のベストプラクティスを発掘・広報)
- 研修会事業
(IT経営への気づきの場提供と実践の支援)

地域経済産業局の
単位で管轄・実施

地域の特性を活かした
研修やセミナー
北海道/東北/関東
中部/近畿/中国
四国/九州/沖縄

連携



日本商工会議所 情報化推進部メンバー
(写真左から関口正俊氏、新田大介氏、市川晶久氏、伊原美穂氏、樋口光氏)



IT経営応援隊事務局を務める
日本商工会議所
情報化推進部長 小松靖直氏
「地域の企業が国際競争力をつけるにはITの利活用が欠かせない。徹底した現場目線で支援していく」

活用の必要性を訴えていきます。実機を使った研修にも挑戦したい」と意気込みを語る。

「大都市圏は別として、地域経済を支えているのは小規模企業です。ここが元気でない」と地域間格差は埋まらず、また国際競争にも勝てないでしょう。ITをキーワードにいかに地域を元気にできるか。この観点で支援をしてきたい」



IT経営応援隊事務局を務める
ITコーディネータ協会
久保寺良之 事務局長
「これまでの経験を事業企画に活かし、また研修会のプレイヤーであるITコーディネータをバックアップしていく」

小規模企業のIT活用を普及させるポイントとして、夏目氏と小松氏は共に、「従来の仕事の仕方にとらわれず、パッケージソフトに合わせるくらいの発想を持つことも大切」と指摘する。カスタマイズの費用を抑えることでITの費用対効果を上げられるからだ。

経営者研修会は より吟味され役立つ内容に

気づき研修に続く「経営者研修会」は、公募によって採択された機関が実施主体となる。本年度は全国で113回開催される予定だ。

従来から経営者研修会の教材作りやインストラクター役を務めてきたのがITコーディネータである。ITコーディネータはITと経営の橋渡し役として企業の立場に立って経営改革を具体的に支援する専門家だ。

経済産業省 商務情報政策局 情報化人材室 室長 夏目健夫氏に聞く

IT経営への機会提供と優秀企業の評価に注力 地域における「IT自給自足体制」の実現を



——本年度は研修会が充実するようですね。

夏目 小規模事業者やサービス業などの非製造業を特にターゲットに、参加しやすい半日研修会を充実させています。気づき研修会から経営者研修会へとステップアップできるようにしました。

——IT経営力大賞についてはいかがですか。

夏目 平成19年度の第1回には多くの応募があったことをありがたく思っています。2回目である

今年は重要な年と位置づけており、昨年行き届かなかった応募書類の記述方法などもわかりやすく例示していきたいと思っています。

——具体的にはどの部分ですか。

夏目 昨年は「ITの導入」と「IT経営の実践」を混同した応募書類が見られ、残念でした。明示してほしいのは、情報システムを入れた結果、それを実践する中で社内体制や業務フローの何が変わったのか、どんな経営効果が出たのかの部分です。重要なのはあくまで経営であり、それをサポートするのがITなのですから。

——これまでのIT経営応援隊事業を通じてお感じになったことはありますか。

夏目 IT経営力大賞受賞企業の中には自社にSEを置いてシステムを作っているケースも見られました。それはそれで良いことですが、すべての企業に当てはまる話とはいえません。地域の企業がIT化を推進するには、身近なところに気軽に相談できるITソリューションの提供者が必要です。そこで、IT経営応援隊ではITベンダーの活性化も視野に入れ、各地域で「ITの自給自足体制」が構築されることを支援していきます。



——ITを導入する企業側はどのような点に注意すべきでしょうか。

夏目 米国に比べ、日本はパッケージソフトをあまり活用しない傾向が見られます。しかし、少し業務フローを変えパッケージに合わせることで、導入費用を大きく抑えることが可能です。自社の強みの部分は別として、バックオフィスの部分など非競争領域でもっとパッケージを活用しても良いのではないのでしょうか。

——今後の支援の方向性をお聞かせください。

夏目 地域企業の活性化というところをモのづくりなどを想起しがちですが、ITによる企業の競争力強化も地域振興につながる有効な方法です。ただ、ITは変化も激しく専門的な要素も多いので、これからも国として支援や情報提供を続けていきます。

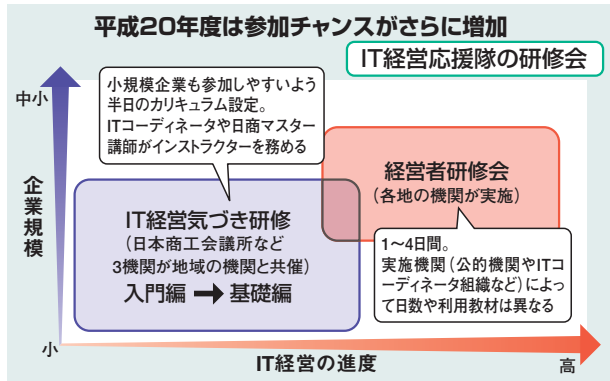
——今後は、研修会のようなIT経営へのきつかけづくりとIT経営力大賞に代表される結果の評価——つまり入口と出口の支援に、さらに力を入れていく予定です。

事務局の一翼を担う日本商工会議所情報化推進部課長の市川晶久氏は次のように説明する。

「従来から実施していた経営者研修会の前段階として、『IT経営気づき研修会』を新たに設けました。地域の商工会議所や商工会、中小企業団体中央会では業種別に実施し、これからIT経営に取り組む企業だけでなくIT経営への気づきを小規模企業に持っていたことを目的としています」

その内容はさらに入門編と基礎編に分かれる。入門編は現場の視点に立って経営課題とITとのかかわりを理解する内容、基礎編は事例を交えた演習に力点を置く。全国約150カ所で開催される。

日本商工会議所では昨年度、中小企業のIT活用に関する調査を行ったが、パソコンやインターネットはほぼ導入されているものの、業務アプリケーションは会計分野でも50%とまだまだ低い状態だった。この結果を踏まえ、情報化推進部長の小松靖直氏は、「気づき研修会では我々が普段お付き合ひしている小規模企業の目線でIT利



ITコーディネータの人材育成、業務開発支援、広報を行っているITコーディネータ協会も本年度から応援隊事務局に参画した。ITコーディネータ協会の久保寺良之事務局長は、その意図を次のように説明する。

「過去の研修事業では講師の95%をITコーディネータが占め、プレイヤーとしてIT経営の重要性をインストラクションしてきました。また、金融機関と連携して地域の経営者を研修会に招いたり、研修後の個別フォローを行ったりと、応援隊の活動に深くかわつ

てきましたので、その経験と知見を発揮していきたいと考えています」

研修会のプレイヤーという立場を活かし、現場の声を反映して改善案を出せるのが強みだ。

久保寺氏は、経営者研修会のメリットを次のように説明する。

「参加の方々からは、自社を客観的に見て、現状とあるべき姿を考える場として非常に良かったという意見をいただいています。吟味されたIT経営プロセスに従って改革の筋道をガイドしますので、受身ではなく、自ら会社のあり方を再考できるはずですよ」

自社の強みや弱みをつかんで経営戦略を練り、実現のためにITを使う。その気づきや取り組みへのきつかけづくりをサポートするのが経営者研修会なのである。

ITコーディネータ協会では、並行して、従来から行っているIT経営の気づき事例を収集し広報する活動も継続していくという。

間口が広がりバリエーションも豊富になったIT経営応援隊の事業。近隣で開催されるセミナーや研修会には是非足を運んでほしい。